

四季の鳥

私たちの近くに息づく野生

[文・写真] 中田一真

マガン

溜池は渡り鳥の中継地

マガン カモ目カモ科
全長72cm

[撮影地] 秋田県

なかた・かずま

1966年生まれ。会社員、野鳥写真家。
身近な鳥たちの四季折々の姿を20年撮影し続けている。

【中田一真のホームページ】
<http://www.asahi-net.or.jp/~jx7k-nkt/>

春3月、雪解け前線を追いかけるように、水鳥たちの北帰行が始まった。マガンの群れもはるか北極圏を目指し、旅を始める。雪の下から顔をのぞかせた田んぼが彼らの餌場。そして、氷の解けた池や沼が彼らのねぐらだ。

秋田県北部、白神山地を北に望むまちに、広さ55haほどのかんがい用の溜池がある。ここは毎春、数万羽のマガンが集う旅の中継地。

3月上旬、白神の友人の誘いで北帰行の観察に出かけた。

現地に到着して驚いたことに、溜池は浚渫工事中。水が抜かれ、重機が土を掘り返している。雪深い季節には工事ができない、鳥たちの渡りには間に合わせなければならぬ。どちらに転ぶこともできない綱渡りのようなタイミング。その頃、7万を超えるガンたちが、すでに隣町まで到着していた。

工事が完了し、水が入り始めたその日の夕方、ガンの小群が溜池に舞い降りた。闇に紛れるように続々とハクチョウたちも集い始めた。翌朝、溜池は満々と水を湛えていた。辺りは、鳥たちの賑やかな声であふれかえっていた。